

2013年10月31日

(本資料は、ロンドンにて2013年10月29日付で配信した発表資料の参考訳です)

スタンダードチャータードPLCは、10月29日付で、2013年度第3四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者ピーター・サンズは、次のように述べています。

「当行グループは第3四半期を通して、不透明なマクロ経済状況であったにもかかわらず、当行が事業を展開する多くの市場において高水準の顧客取引と好調な取扱高を継続し、堅調な業績を達成しました。当行の多様性は、対象とする市場・商品・産業のいずれの点でも優れており、厳格なコスト・リスク管理とともに、第3四半期の業績を下支えしました」

なお、今回の発表には、英国の銀行税(現時点では2億6千万米ドルに達する見通し)、自己クレジット調整(OCA)、韓国における営業権(のれん代)減損、および2012年第3四半期にニューヨーク州金融サービス局(NY DFS)へ支払った3億4千万米ドルの和解金の影響は含まれておりません。

「年初来」は2013年9月30日までの9カ月間を指します。「前年比」は、特に明記しない限り、2012年の年初からの9カ月と比較したものです。

第3四半期には市場の変動が高まる局面がありましたが、当行は引き続き旺盛な顧客需要に支えられて堅調な業績を達成しました。第3四半期は好調にスタートを切りましたが、8月に入ると季節要因のために業績の伸びが鈍化しました。8月の市場では厳しい状況が続き、9月の業績にも影響を及ぼしました。

コンシューマーバンキング部門は上半期同様に好調で、年初来の収益の伸び率は1桁台半ばを記録しました。ホールセールバンキング部門では、顧客取引に伴う利鞘が前年比で低下しましたが、それを堅調な取扱高が補う形となり、年初来の顧客収益は1桁台半ばの伸びとなりました。年初来の業績の主な下振れ圧力は、現在も続いている自己勘定収益の低迷と市場の先行きの不透明感です。

中間決算以降、インドルピーおよびインドネシアルピアを含む新興国通貨の多くが下落しました。現在の外国為替相場をベースにすると、為替市場の変動による影響は2013年通期の収益で約2

億米ドル、税引き前利益で約7千万米ドルに上ると予想しています。

以上の結果、当行グループの年初来の収益の伸びは1桁台前半となりました。第3四半期の収益は前年同期と比較してで1桁台前半低下しました。

当行の収益は、地域・顧客層・商品基盤のいずれの点でも引き続き幅広く分散しています。香港・アフリカの業績は堅調に推移しており、年初来の収益・利益はいずれも2桁台の伸びでした。両地域の好業績は、年初来の収益が1桁台の減少となった韓国・シンガポールでの業績不振をカバーしました。

厳しいコスト管理を継続し、規制・コンプライアンスに関連するコスト増や事業拡大のための投資を含めても、年初来の総コストの増加率は収益の伸びと同率の範囲に収まりました。第3四半期コストの前年同期比は、ほぼ横ばいでした。

2013年通期では、韓国での税務関連の特別損失は約6千万米ドルに上る見通しです。

当行グループの第3四半期の減損は、前年同期比で約数千万米ドル増えたものの、2013年上半期のランレートを下回る3億米ドル以下にとどまりました。これには主に、クレジットコスト(減損費用)がコンシューマーバンキング部門で増加が続く一方、ホールセールバンキング部門で増加が抑えられたことが反映されています。

早期警戒水準は2013年上半期の場合とほぼ同じです。過去2年間、当行はインドを注視し、アンダーライティング基準を強化してきましたが、その判断は今回も変わりません。インドのマクロ経済状況から判断し、当行は引き続きインドにおけるポートフォリオを厳しい管理下に置いてまいります。

これらの結果、当行グループの年初来の税引き前利益は前年比で1桁台前半の伸びとなりました。

バランスシートは盤石で、多様性と流動性は十分に確保されています。

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門は、上半期に見られた収益増の勢いを持続させ、年初来の伸びは1桁台半ばで推移しています。第3四半期の収益は前年同期をやや上回りました。地域別では、香港・インド・中東・南アジア・中国・アフリカなど幅広い地域が収益を伸ばし、韓国・シンガポールの業績低迷を相殺しました。韓国における業績低迷は複数の要因が重なって起きていますが、シンガポールの場合は、利鞘の低下と、不動産価格高騰に対する政府の引き締め政策による住宅ローンの減少が主な原因です。

商品別では、住宅ローン事業全体は年初来2桁台の収益増を続けています。一方、ウェルスマネジメント事業は最近の市場変動の影響を受けましたが、年初来の収益の伸びは依然として1桁台半ばを維持しています。クレジットカード・個人向け融資事業の収益の伸び率は、韓国を中心とするリスク軽減の強化を受けて、上半期の水準には及びませんでした。それでも1桁台後半で推移しました。

費用については、年初来で1桁台前半の増加となり、非常にポジティブなJAWS(収益の伸び率と費用の伸び率の差)が生じています。その理由としては、必要な投資を行う一方で、経常費用の厳しい管理を引き続き徹底していることが挙げられます。

クレジットコスト(減損費用)は、予想通り、上半期に続いて高い水準にあります。これは、韓国における個人再生手続き(PDRS)申請の影響、無担保資産の過去最高の増加率、年初来続いている債券売却の伸び悩みなどによるものです。

負債比率の先行指標は安定的に推移しており、上半期の水準から悪化する兆候は一切見られません。

以上の結果、コンシューマーバンキング部門の年初来の営業利益は1桁台半ばの減益となりました。

韓国の業績はコンシューマーバンキング部門全体の収益に引き続き重大な影響を及ぼしています。韓国の業績を除外すると、コンシューマーバンキング部門の収益・利益のいずれも1桁台後半の伸びとなります。

ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門の年初来の収益は前年比で横ばいでした。顧客収益は、8月と9月に大きな市場変動があったものの、旺盛な顧客需要を反映して1桁台半ばの伸びが続いています。しかし、そのプラス効果は、ALM収益とプリンシパルファイナンス事業を中心とする自己勘定収益の伸び悩みが続いたために相殺されています。

コマーシャルバンキング事業は引き続きホールセールバンキング部門の中核をなしており、顧客収益への寄与度は約50%に上ります。コマーシャルバンキング事業に含まれるトランザクションバンキング事業の収益は年初来と第3四半期単独のいずれにおいても1桁台半ばの減少でした。

トレードファイナンスとキャッシュマネジメントの両事業の取扱高は、上半期に続いて堅調に推移しており、年初来と第3四半期のいずれにおいても2桁台増を記録しています。

第3四半期の利鞘は前年同期比で大きく低下しました。下落率は、トレードファイナンス事業が約26ベーシスポイント(bp)、キャッシュマネジメント事業が約15bpでした。ただし、現時点ではいずれの利鞘とも安定的に推移しています。

フィナンシャルマーケット事業全体の収益は、年初来では引き続き1桁台半ばの伸びでしたが、第3四半期だけを見ると第2四半期を大きく下回りました。主な要因は、取扱高が、第3四半期と年初来のいずれにおいても前年同期を上回ったものの、第2四半期の水準を大きく割ったことです。なお、スプレッドは第3四半期を通して安定的に推移しました。

コーポレートファイナンス事業の収益は順調に推移しています。今後の見通しも堅調です。市場変動を反映して一部の取引では決済に遅れが生じていますが、年初来の収益の伸び率は上半期とほぼ同様に2桁台となりました。

自己勘定収益の低迷は、ホールセールバンキング部門全体の業績の足を引き続き引っ張っており、年初来では2桁台の減益でした。ALM収益は、低金利の継続とリスク軽減機会の減少を反映して、年初来で約20%の減益となりました。

プリンシパルファイナンス事業の第3四半期の収益は、案件からの実現益、および評価損益の減少から、年初来では1億4千万米ドル超、前年比40%の減益でした。

費用管理は引き続き徹底しており、年初来の増加率は1桁台前半にとどまっています。

ホールセールバンキング部門全体のクレジットポートフォリオ管理は堅実に行われています。ただし、前述のとおり、インドについては引き続き特別な注意を払い、アンダーライティング基準を強化してまいります。

顧客収益の順調な増加、自己勘定収益の伸び悩み、厳格なコスト・リスク管理を背景に、ホールセールバンキング部門の年初来の営業利益は1桁台前半の増益となりました。

グループ

当行グループ全体では、堅調な業績を達成しました。

2013年通期のJAWSはニュートラルを目標とし、そのためにコスト管理の徹底を期してまいります。減損はコンシューマーバンキング部門で高水準となっていますが、ホールセールバンキング部門では大きな増加は起きていません。

なお、2013年度第3四半期の詳細については11月11日のアナリスト・投資家デーに説明を予定しております。2013年通期業績予想については、12月上旬に発表する予定です。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7151

Jon Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

CA.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性・実現性を保証するものではありません。また、本資料には、「予測」「目標」「見通し」「傾向」「計画」「目標」「評価」「意見」「可能性」他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績・計画・目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼性の高い過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。